【ねがいましては】

平成２１年５月２５日　　*KYOWA SCHOOL*
第２２３号

「母として」

　先日、新聞の投書欄に心あたたまる記事が載っていました。テーマは「テスト」。その方は現在看護師をされており、小学校当事、算数割り算テストで「０点」をとり、叱られるのを覚悟して母親に見せます。すると母は以外にも「一緒に勉強しよう」と言い、丁寧に教え始めます。その結果、次の割り算テストでは１００点をとります。その答案を母に見せると、「よくがんばったね」と抱きしめてくれたのだそうです。後、その母の愛情を宝に看護師になられたそうです。

　母が子を抱きしめたときの美しい光景が私の中に広がります。

　その光景を生み出した核になるもの、子の勇気にあるでしょう。叱られるのを覚悟してテストを見せること。相当の勇気が必要です。見せなさいと言われ見せるのと、自分から見せるのとでは、全くその後の流れが変わってしまいます。そのお子さんはそんな事を予想して見せたわけではなく、日ごろからの母の愛情を強く受け取っていたのでしょう。母と子は強い絆で結ばれ、子どもの心は安心感でつつまれていたはずです。日ごろの母の子に対する接し方が、その勇気を子に与えたのでしょう。

　母から受け取った宝ものは、その子の成長に大きくかかわっています。

　私の中にも、その子の心の中が見えてきます。安心感につつまれた心、「私にはお母さんがいる、私にどんなことがあってもお母さんは理解してくれる・・・・。」

　そのあとにやってくる感情、「わたし、お母さんみたいになりたい・・・。」

　母と子の至福の瞬間です。きっとこれをお読みになられているお母さまは目頭が熱くなるのをお感じになっていると思います。

　今、問題視されているすべてはこれで解決できるのではと思ってしまいます。まず、いじめはなくなるでしょう。いじめの側に立っている自分を見たとき、それを知った母はどれだけ悲しむでしょう。子は自ら正義感を高め、自らの行動に責任を持つようになるでしょう。勉強にしても、もし、その時々が精一杯の自分でなかったとしたら、きっとそんな自分を母が見ていたら悲しむでしょう。結果はどうであれ、今を精一杯に生きよう。そう思うようになるのではないでしょうか。

　ここへやってくる子たちは、なぜなのでしょう・・・、皆優しい子たちばかり、美しい心を持った子たちばかりです。本来子どもたちは全員がそうなのでしょう。

　ケーキを作ったと持ってきてくれる子、小さな包みにおみやげを小分けにして渡してくれる子、珠算連盟からの仕事を手伝ってくれる子、マルつけを手伝ってくれる子・・・・。

　その子たちの家庭が温かいことがわかります。

　まれにですが、その逆も見受けられることがあります。ここへ来て色々と手伝ってくれるのですが、それはここが自分の家のように感じているようです。「ああ、ここが自分の家だったら・・・。」

　日々忙しく働いていらっしゃるお母さんたちが多い中、時には会社でいやな思いをされることがあるでしょう。イライラされることがあるでしょう。それに重なるように、帰宅すると散らかしっぱなしになっている部屋。日中、『忍』の１字で耐えていらっしゃったお母さま方には、もう限界はとっくに超えてしまっているかもしれません。

　『爆発』・・・子のこころは一瞬にして氷のように固まります。そしてその思い出は強く焼きつくことになります。

　勉強の世界に恐怖を感じるようになってしまった子たちの多くに、そのような家庭での出来事が深く関わっていることがあります。もうつくってしまった事実は戻すことはできません。根気よく根気よく、子のこころをほどいていかなければなりません。

　母も人間、子も人間、家族の中で起こる過ち・・・どのようにして許すのか・・・。

　まずは母がしっかりと謝ることも必要だと思います。

　さきほどのお母さん、「一緒に勉強しよう」と声をかけてくれたお母さん。きっと心の奥で子に謝っていたのですね。「〇〇ちゃん、ごめんね。私が忙しくしていたばかりに０点を取ってしまったのね。学校ではどんなに心細かったでしょう。・・・ごめんね・・・。」お母さんの声が聞こえてきそうです。

　ここに通うみんな・・・心に元気がなくなりかけていたら、何の遠慮もいらないよ。そっと癒すことのできる場所があるからね。つらいこと、悲しいことは自分の中にしまっておくことはないんだよ。

　いつもいつもあなたがたに思うこと・・・「助けたい」。

　あなたがたのまじめに生きようとする姿は、私にその思いを創り出し、そして私に清らかな心を与えてくれます。あなたがたがいるからこそ、わたしのこころはきれいになれるのです。

　ありがとう。